



vol.39

駄菓子や なかよし・うおよし
店長
きたざわなおふみ
北澤尚文 さん

プロフィール

新潟県両津市(現佐渡市)出身。東京都や特別区の職員を定年退職後、令和3年7月に柿の木坂で「駄菓子や なかよし・うおよし」を開店。八雲小学校PTA会長や青少年委員を経て、平成27年から八雲住区住民会議会長を務める。

転がり込んだ、またとない機会

「なかよし・うおよし」は、パーシモンホールの向かいにある駄菓子屋さん。店長の北澤さんは「定年後は駄菓子屋をやりたいと、長年話をしていたんです。PTAの後輩から『家業の魚屋を廃業するので駄菓子屋にどうですか』という話があって、やってみることにしました」と話します。

なぜ駄菓子屋なのかを聞くと「私の故郷は佐渡島なんですが、息子たちがふるさとと思える場所を作りたいという気持ちがずっとあり、地域活動をする中で、その気持ちはさらに強くなりました。駄菓子屋をできれば、子どもたちの楽しい居場所になり、そこからふるさとにつながればいいな」と。店名の由来を聞くと、「駄菓子屋でなかよしになることと、場所を提供してくれた魚屋の屋号、うおよし(魚由)を合わせました」

店舗造りと運営は仲間の協力があってこそ

「店の改装は昔ながらの駄菓子屋ではなく、居場所づく

みんなの居場所になつて
ふるさとみたいになれたら



場柿の木坂1-34-15
時11:30~18:00。月・火
曜日、祝・休日定休
間4361-4281

りをコンセプトに1階の奥や2階に人が集まるスペースを設けました。設計は建築士の長男に、壁画や床張りはアーティストの次男が手がけました。さらに地域の皆さん、前の職場の同僚と一緒にペンキ塗りなどもやって、できる限り自分たちで造りました」

駄菓子屋のやりがいを伺うと、「おじいちゃん、おばあちゃんがお孫さんと一緒に来てくれると、やっていてよかったです。店に通う子が大きくなっていく姿など、地域の子どもの成長に立ち会えるのもうれしいですね。当面の課題は、スタッフ・ボランティアの確保や住区活動と店舗運営との時間調整、収益のアップなどですが、みんなと協力して乗り切りたいですね」



▲次男が描いた壁画のある2階のレンタルスペース

地域に託していきたい、みんなが集まる場所

駄菓子は約230種類ストックしているそう。「子どもたちは平均150円分くらい買っていますが、予算をオーバーしたらどれをやめるか、スタッフと相談する姿をよく見ます。最近は電子マネーで支払う子も多いですよ」

2階のレンタルスペースでは、お楽しみ会や中学・高校生向けボードゲームカフェ、夏休みの学習スペースなど、地域の居場所として利用されています。「今年2月から、能登半島応援で八雲マルシェというイベントに協力しています。お店に募金箱も置いています」と北澤さん。

「ここが八雲の故郷の一つになれたとしても、私が引退して終わりではなく、次の世代に引き継ぎ、末永く続けていきたいですね。故郷の佐渡米で作ったおにぎりなども用意しています。ぜひ気軽に来てください」と語ってくれました。

語ろう人権 家庭で地域で

外国人の人権
~共に築く、目黒区の新たな姿

國人権政策課(5722-9214、5722-9469)

外国人から選ばれる国に

人手不足が年々深刻化する日本。厚生労働省の統計を見ると、昨年の外国人労働者数は200万人を超え、外国人を雇用する事業所数も過去最高を更新しました。区内に住む外国人も貴重な労働力の供給源であり、中小企業では外国人管理職の活躍も目立ちます。

政府は、自動車運送業など人手不足が深刻な分野を対象に新たな在留資格を追加しました。今後は、外国人を雇用の調整弁としてではなく、慣れない日本で長く働きたいと思えるような、魅力的な環境の整備が求められます。外国人も昇進できる仕組みへの積極的な取り組みも必要です。ヘイトスピーチなど、差別的な言動を許さない社会風土も、極めて重要な要素であることに間違いありません。

どういう日本を世界に伝えたいか

円安の影響もあり、外国人観光客数も過去最多になると予測されています。そして近年は、買い物

よりも体験を重視する傾向がみられ、丁寧で優しい日本のおもてなし文化を期待して、日本を訪れる外国人も少なくありません。道に迷った外国人への私たちの対応一つが、日本に対する印象を大きく左右します。日本社会が多様性を受け入れ、共生する姿勢を示す重要な機会かもしれません。

目黒区ならではの魅力を

現在、区内には1万人を超える外国人が暮らしています。区の世論調査では、外国人を含む9割以上の区民が、住み続けたいと答えています。区の居心地の良さや快適性が評価されています。区は、区内の自然と歴史を楽しむ散策コース「みどりの散歩道」など、体験型のさまざまな区の魅力を国内外に発信しています。また、外国人住民と共に生きるまちを目指して、めぐろ多文化共生推進ビジョンを掲げています。

違いを認め合って交流し、多様性と共生を追求する目黒区を、共に築いていきませんか。

フォトアラカルト

区内でのイベントなどを、写真を中心にお伝えします。

10月13日

第48回目黒区民まつり

目黒区の祭りを代表する目黒区民まつり。48回目を迎える今年も、各会場は多くの来場者でにぎわいました。



▲目黒のさんま祭。事前申し込み制(抽選)で、当選者数1,500人のところ、応募総数は18,000人。今年も焼きたてのさんまが振る舞われました



▲子どもに大人気なキャタピラ遊び



▲最優秀受賞者、俺亭きらりさんによる落語披露「飴屋小僧」



▲友好都市から自慢の品が販売されました



▲野外特設ステージでは、フラダンスなど多くの区民団体が日頃の成果を披露しました

問文化・交流課交流推進係(5722-9278、5722-9378)